

### 3) 調査地点の水質状況

調査地点全体の1,108地点のうち、河川における925地点について、BOD75%値のランク別割合を示したものが図-7である。

河川におけるBOD75%値のランク別割合は、1.0mg/ℓ以下と1.1～2.0mg/ℓのランクが37.7%、38.3%と大きい割合を占める。また、3.0mg/ℓ以下（水道1～3級）のランクは全体の89.2%を占めており、平成12年と比較すると1.0ポイント増加している。一方、3.1mg/ℓ以上のランクでは、5.1～8.0 mg/ℓのランクで0.5ポイント増加したが、その他のランクでは減少している。

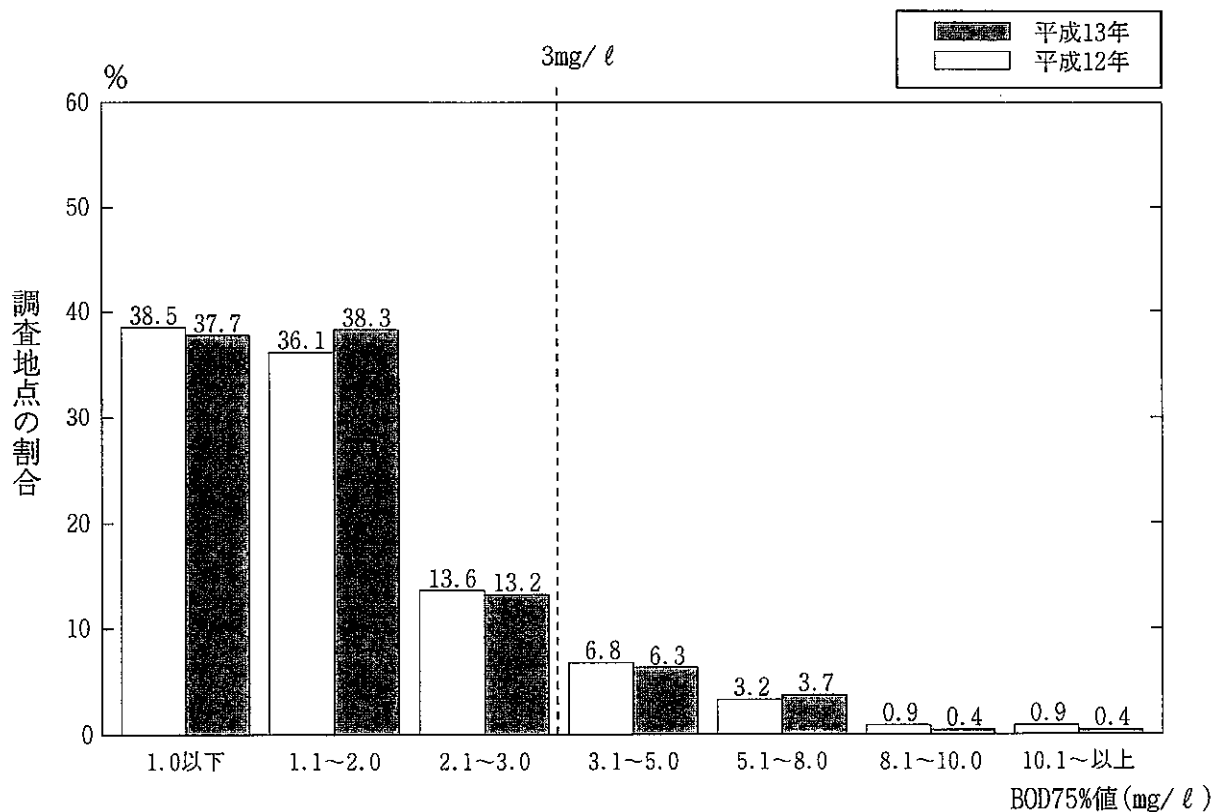


図-7 BOD75%値ランク別割合（河川）

湖沼等における179地点について、COD75%値及び総窒素、総リン平均値のランク別割合を示したものが図-8である。

湖沼等におけるCOD75%値のランク別割合は、1.1~3.0mg/ℓのランクが53.6%と最も大きい。また、3.0mg/ℓ以下（水道1~3級）のランクについて平成12年と比較すると、1.0mg/ℓ以下のランクで0.6ポイント減少したものの、全体に占める割合は54.7%と1.9ポイント増加している。一方、3.1mg/ℓ以上では、5.1~8.0mg/ℓのランクで3.4ポイント減少しているもののその他のランクでは増加している。

総窒素平均値のランク別割合は、0.21~0.40mg/ℓのランクが42.5%と最も多い。また、0.40mg/ℓ以下（水道1~3級）のランクについて平成12年と比較すると、全体に占める割合が45.9%と、1.3ポイント減少している。一方、0.41mg/ℓ以上では、0.61~1.00mg/ℓのランクで2.7ポイント増加しているものの、その他のランクでは減少している。

総リン平均値のランク別割合は、0.011~0.030mg/ℓのランクが46.4%と最も大きく、次いで0.006~0.010mg/ℓのランクが20.7%となっている。0.030mg/ℓ以下（水道1~3級）のランクで平成12年と比較すると、0.006mg/ℓ~0.010mg/ℓのランクで5.7ポイント減少したものの全体に占める割合は71.0%と1.3ポイント増加している。一方、0.031mg/ℓ以上では、0.051~0.100 mg/ℓのランクで2.8ポイント増加し、その他のランクでは減少している。

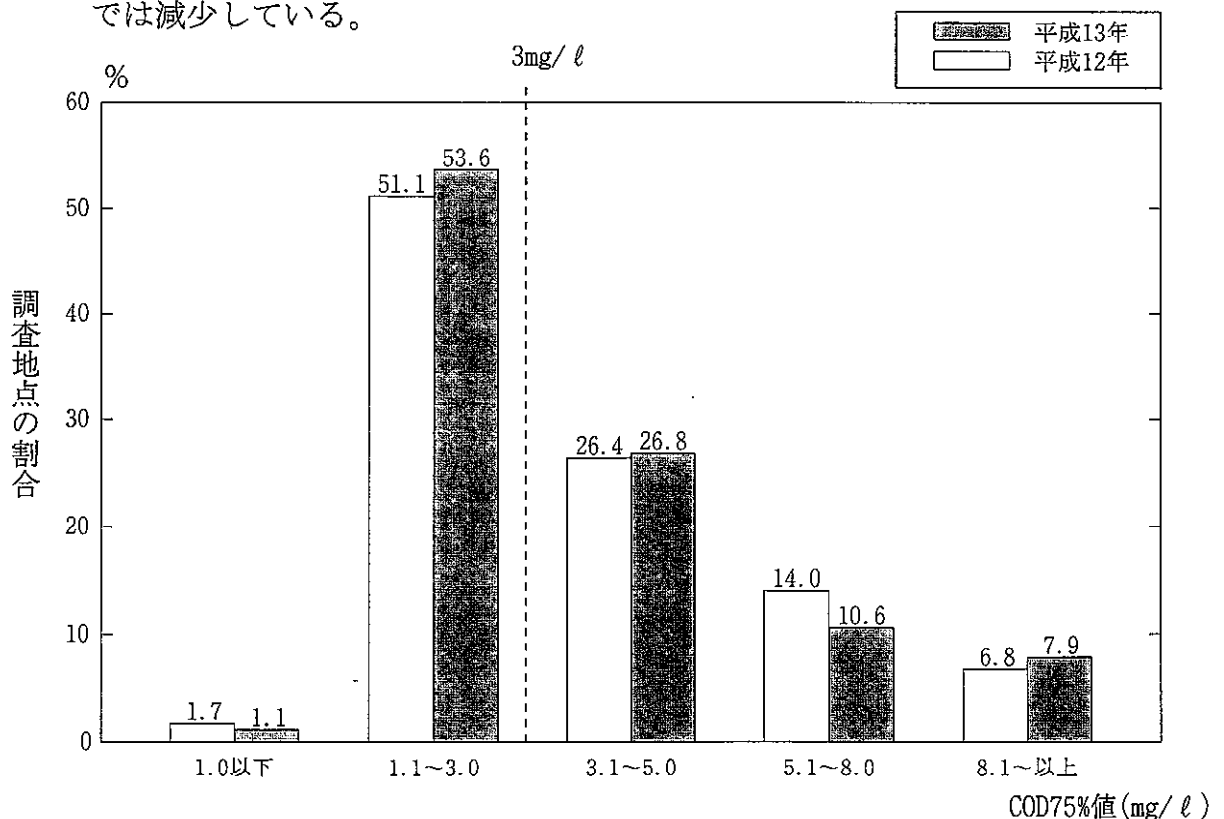


図-8(1) COD75%値ランク別割合 (湖沼等)

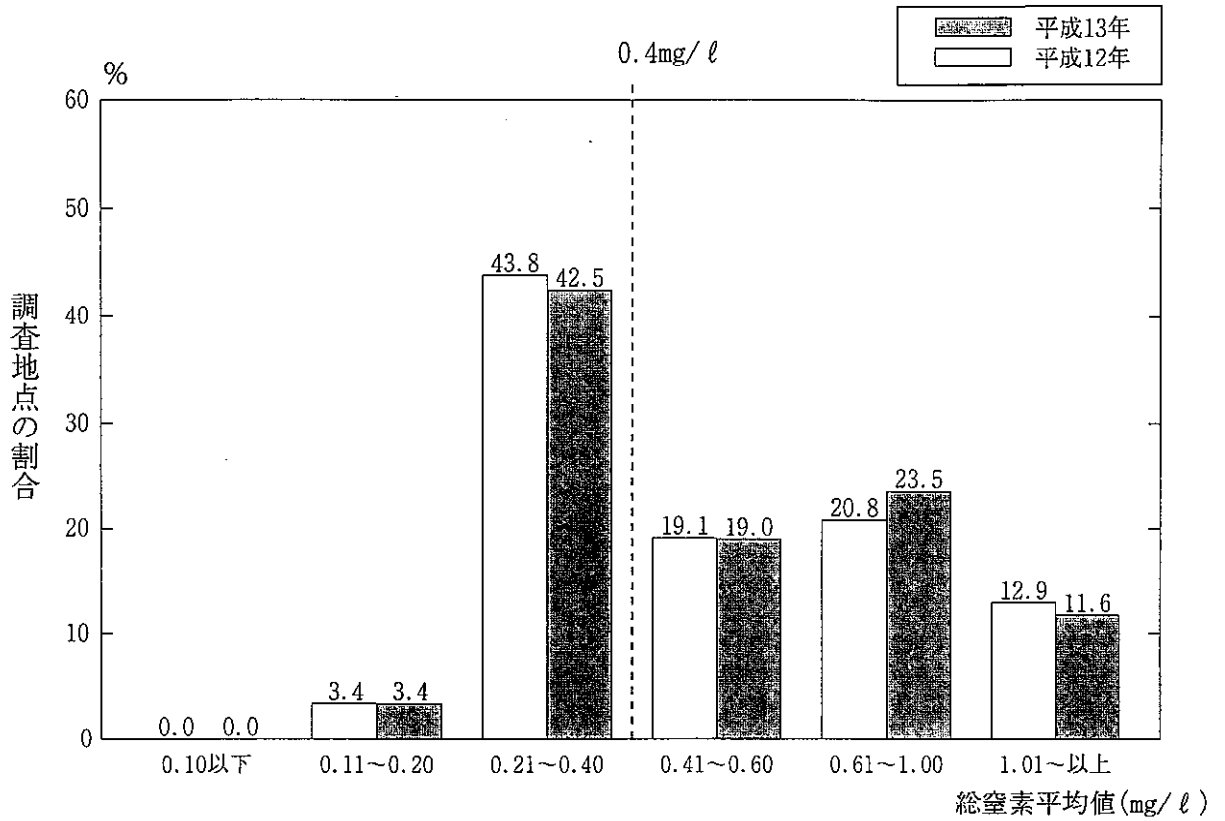


図-8(2) 総窒素の平均値ランク別割合 (湖沼等)

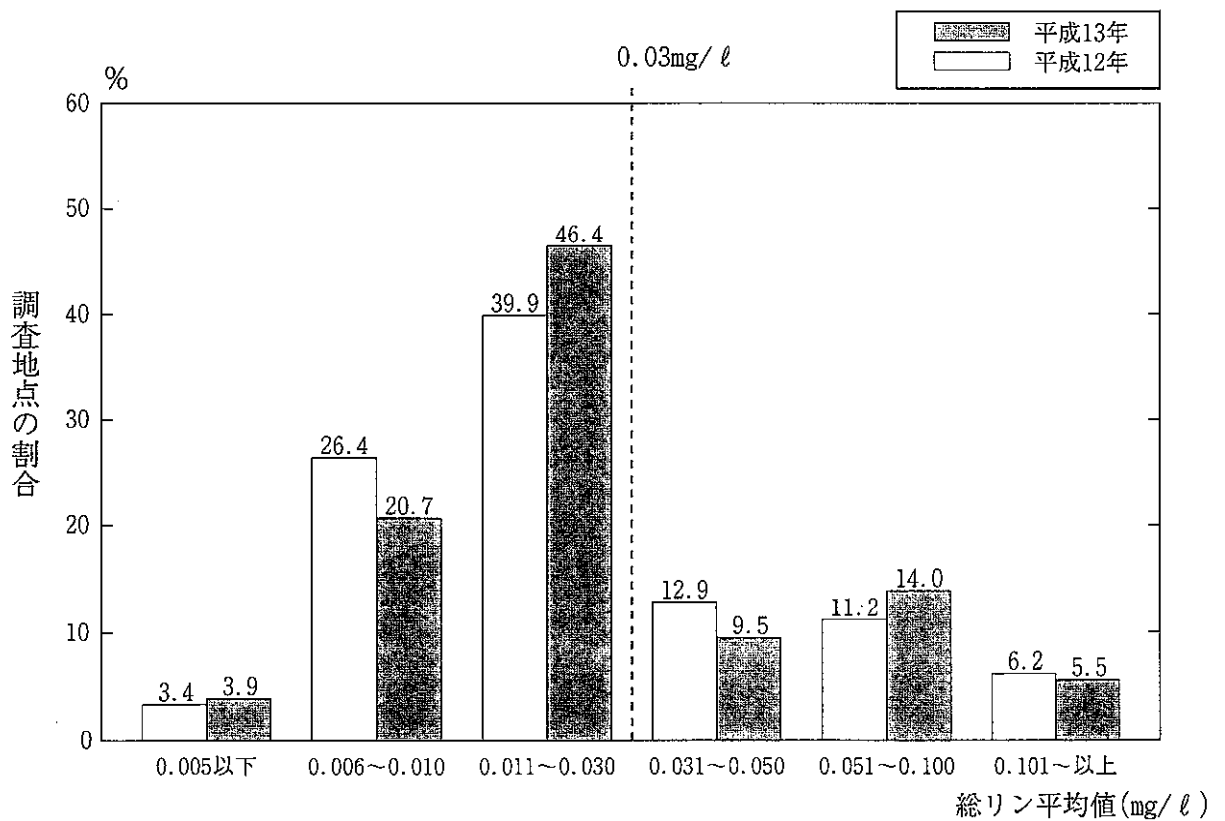


図-8(3) 総リンの平均値ランク別割合 (湖沼等)

図－9は、河川のBOD75%値、総窒素及び総リン平均値についてランク別割合の経年変化を、図－10は湖沼等のCOD75%値、総窒素及び総リン平均値についてランク別割合の経年変化を最近10年間についてそれぞれ示したものである。

河川の水質のうち、BOD75%値が3.0mg/ℓ以下のランクについて経年的な変化に着目すると、平成6年は濁水の影響により低くなっているものの、全体的には徐々に増加傾向にある。

また、総窒素及び総リン平均値のランク別割合の経年変化でみると、総窒素で0.40mg/ℓを越えるランク及び総リンで0.030mg/ℓを越えるランクは、過去10年間ほぼ横這いの傾向を示している。総窒素及び総リンは、常時流下している河川では影響は小さいが、湖沼等の閉鎖性水域においては富栄養化現象の原因物質となるので注意を要する。

湖沼等の水質のうち、COD75%値では3.0mg/ℓ以下、総窒素平均値では0.40mg/ℓ以下及び総リン平均値では0.030mg/ℓ以下について、それぞれのランク別割合について経年的な変化に着目すると、いずれの水質も全般に横這いの傾向にある。

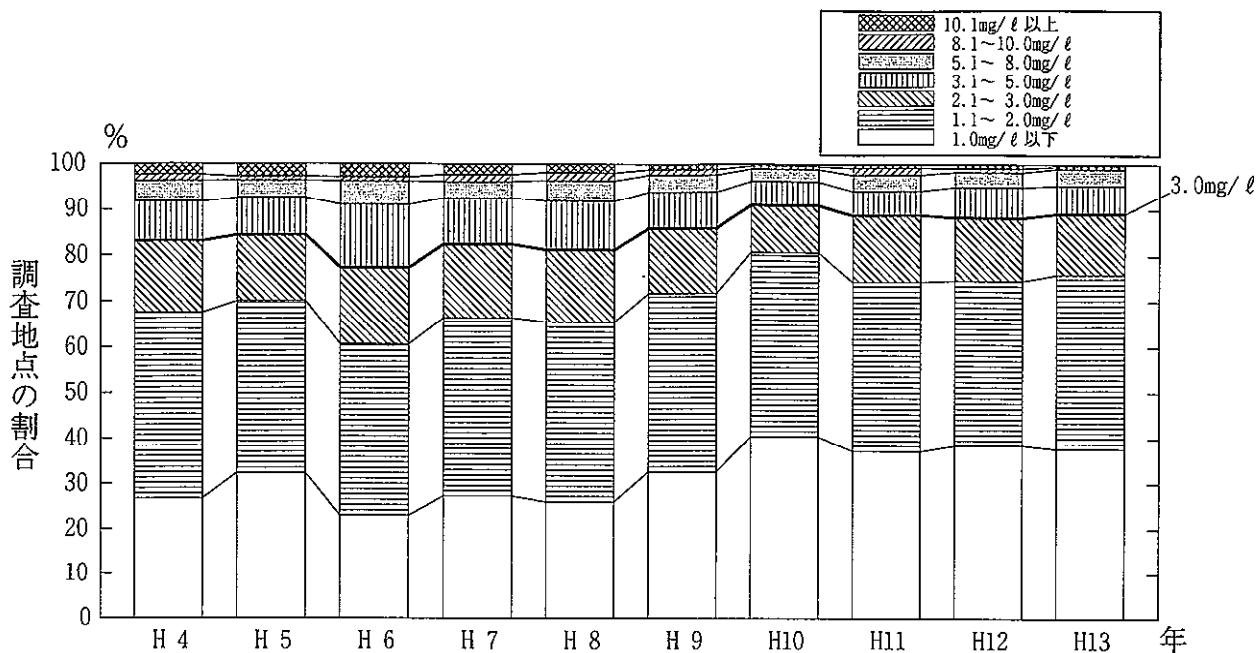


図-9(1) BOD75%値ランク別割合の経年変化(河川)

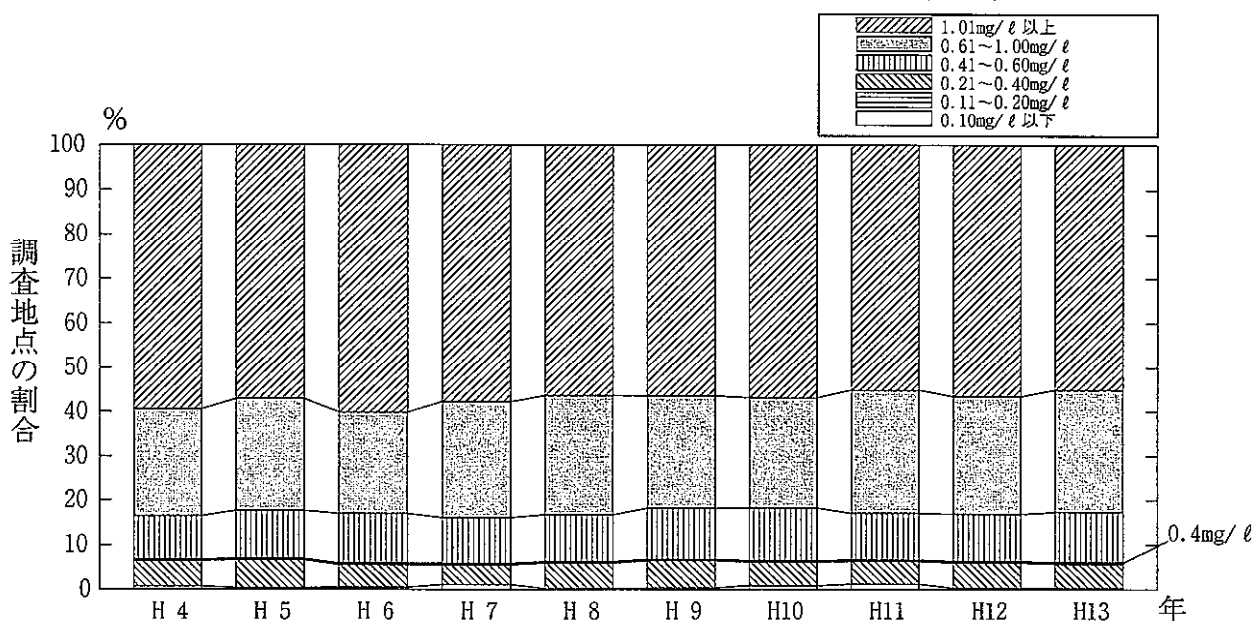


図-9(2) T-N平均値ランク別割合の経年変化(河川)

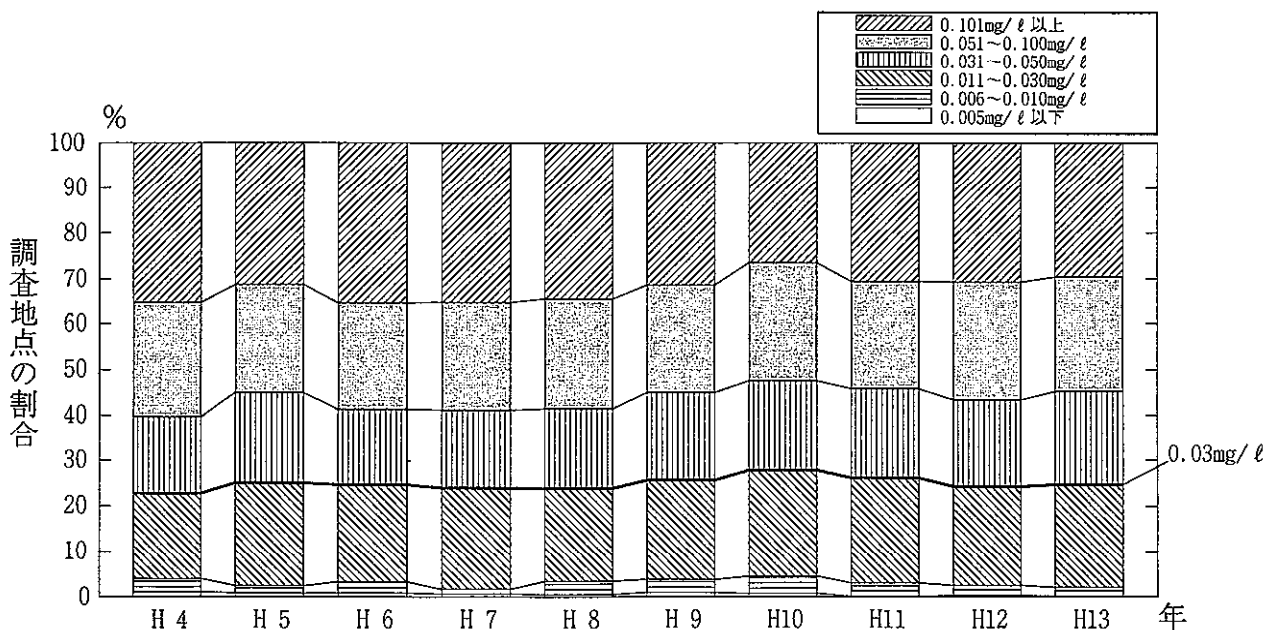


図-9(3) T-P平均値ランク別割合の経年変化(河川)

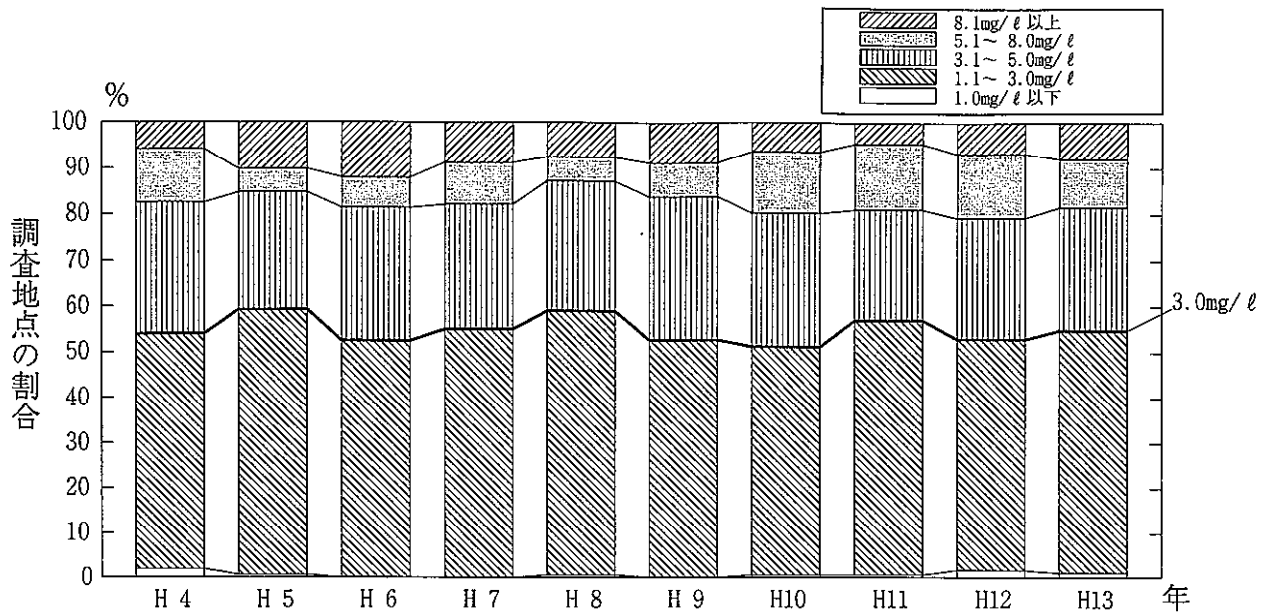


図-10(1) COD75%値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)

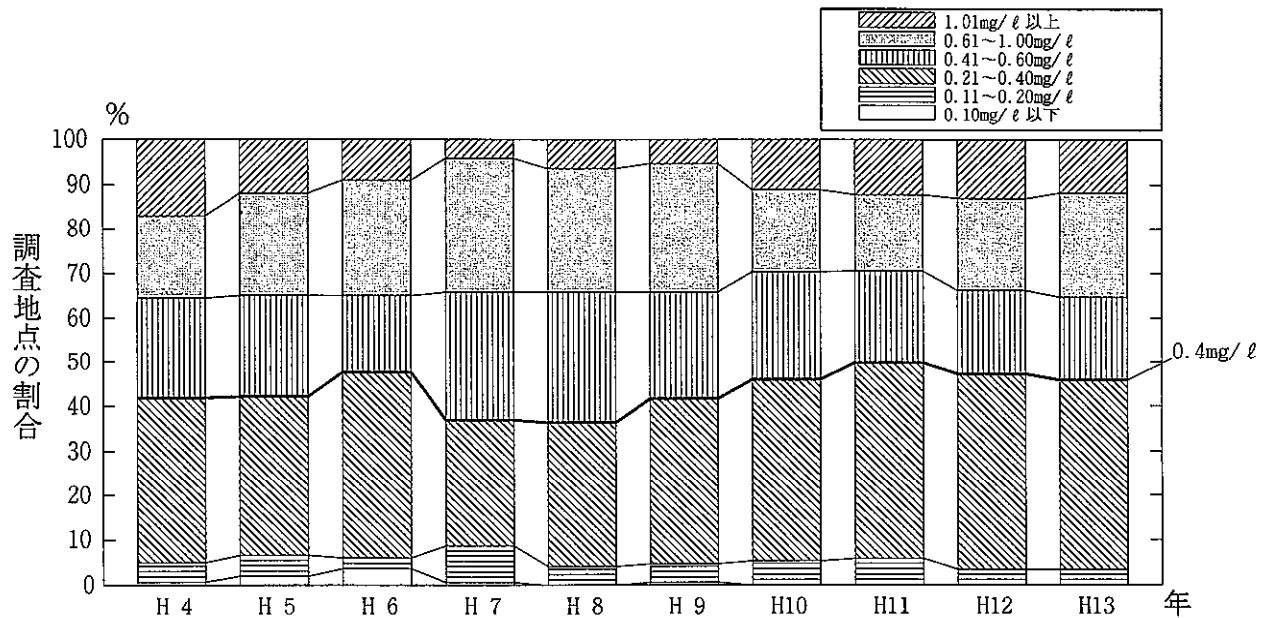


図-10(2) T-N平均値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)

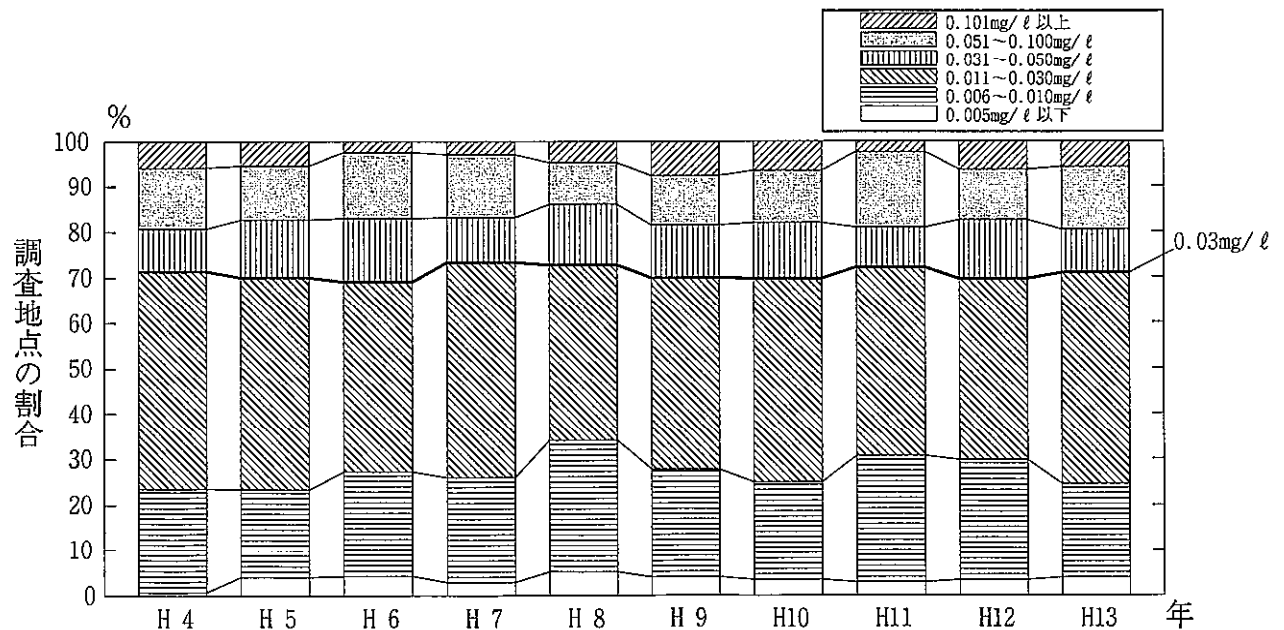


図-10(3) T-P平均値ランク別割合の経年変化 (湖沼等)